

第15回 美作市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和7年7月23日（水） 午後1時00分から午後3時14分
- 2 場 所 美作市役所 2階大会議室
- 3 出席者

（1）構成員

市長	萩 原 誠 司
教育長	福 田 昌 弘
教育委員	景 山 智 子
教育委員	岡 本 美 幸
教育委員	万 殿 貴 志
教育委員	浅 尾 めぐみ

（2）職員

教育委員会	教育次長		野 村 慎 恵
	教育総務課	課 長	渡 邊 喜 彦
		課長補佐	綱 澤 茂 樹
		総務係長	松 本 辰 徳
	学校教育課	課 長	大 辻 慎一郎
		課長補佐	仁 後 知 佳
	社会教育課	課 長	万 殿 直 樹
		課長補佐	山 本 哲
	スポーツ振興課	課 長	福 原 基
		課長補佐	上 山 高 弘
保健福祉部	部長		長 畑 真 吾
	福祉政策課	課 長	枝 廣 成 紀
	子ども政策課	課 長	高 坂 正 和
政策推進部	総合政策課	課 長	春 名 徹 也
	情報政策課	課 長	花 房 昌 史
市民生活部	部長		梅 澤 清 子
	市民課	課 長	渡 邊 祥 子
総 務 部 (事務局)	部長		太 田 裕 二
	秘書課	課 長	森 安 美 香
		秘書係長	衣 田 譲 二

- 4 議題及び議事概要 別紙のとおり
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者数 0人

発言者	会議要旨
秘書課長	1 開会
市長	2 市長あいさつ 教育に関する基本方針を市長部局とともに教育委員会が決めるといことが定着をしてきた。様々な分野に影響する教育の在り方、それを街全体で考えていく、趣旨に照らして妥当な方向かと思う。 市議会等においても、教育に関する様々な議論が展開されているが、その中でいくつかのものは教育会議に諮った上で、市全体の方針として定めていく必要がある。今日後から説明があるが、いくつか大きな変更、又は新しい道を生み出すといったような論点が出てくる。全体としての方針が確定し、さらにその方針が、より多くの市民の方々のご理解とご支援をいただけるものになるようご協力をお願いする。
教育長	3 教育長あいさつ 4月以来大きな動きがスタートし、樸学園でやっていることが美作市の教育の集大成になっていくのではないかと、というぐらいの受け止めをしている。集大成になることは、樸学園が発信する立場。付いてくるのは周りの小中学校、あるいは園だろうと考えている。 ありのままである、自己選択、自己決定をキーワードにしているが、語られることは実態が伴わないだろうということ。それを実現するならどうしないといけないかということを実体化したものが樸学園。実際に視察なり、状況を聞きに来られた方の反応の中に、通常の学校で取り組んでいけないといけないなという意見もある。逆に樸学園というのはちょっと普通じゃない、違うことをやっているなという方もいる。そのギャップを、どう取り組んでいく、どういう方針を打ち出していくかということで、流れが大きく変わらと思う。やって来ている中学生を見ても、自ら学びに向かっていき、本当に生き生きとして学んでいる。その中で、将来を見据えたら、その子たちが1番課題にしておかなくてはいけないのは、思春期以降の生き方をどう考えるかということで、一つ大きな課題になるだろうと思う。 生きる力と文科省は言うが、そのあとが続かない。生きる力を、今度は生き方をどうするかに変えていかなくてはいけない部分もあると考えている。こういった大きな流れを組立てているあたりを踏まえ、総合教育会議の中で忌憚のない意見を交わせたらと思う。
教育次長	4 協議事項 (1) 美作市教育大綱実施計画（案）及び施策の取組み状況について 美作市教育大綱実施計画について、変更点、今年度の主要な取組について、教育委員会各課から資料に基づき説明を行う。

教育総務課長	少子化に伴う学校園等の統廃合の検討について説明。
学校教育課長	架け橋期教育の充実、「学ぶ力」の育成、支援教育の推進、樸学園・青少年サポートセンター、地域クラブ活動への移行について説明。
社会教育課長	公民館の再編成、みまさか市民大学、移動図書館、子どもの読書活動、新たな文化交流施設の整備について説明。
スポーツ振興課長	スポーツ振興、スポーツ施設の利用環境の充実、スポーツキャンプ等の誘致事業の推進、地域の資源を活かしたスポーツ人材の育成について説明。
市長	【協議】 1 ページから順次議論 (1 ページ) 架け橋の定義がはっきりしない。
学校教育課長	園と小学校の滑らかな接続に向けて5歳児から小1の期間を園と小学校が連携しながら、指導方針を決めていくというのが架け橋期プログラム。
浅尾委員	架け橋プログラムについて、市内全校園に発信するのはいつ頃を目途にしているか。
学校教育課長	既に発信はしているが、実施については確認させていただきたい。
市長	他の地域の幼児教育機関について一切触れてない、というところが引っかかると思うが、何か触れられる内容があるか。
浅尾委員	架け橋コーディネーターの先生が各園を回って実践に向けてされていることと思うが、実際どの程度、各校園に理解が。園は大分理解ができていると思うが、学校にどれぐらい理解と協力が得られているかを聞きたい。
学校教育課長	園と小学校1年生の担任と連携するためにコーディネーターが全ての校園を回っているが、正直なところを言うと、小学校においてどうしても教え込みになりがちなところがある。担任の力量によるところもあるかと思う。そういうところをどう揃えていくのかが課題だと思う。
市長	文章上これでよいか。それとも文章的に変更を求めるか。

浅尾委員	今のだけだったら、むさしこども園と大原小学校だけはしているという感じに受け取れるので、市内の学校園も実施をして取り組んでいるところだという現状も書いていただけたらと思う。
市長	(3ページ) 学ぶ力というものを、「学力＋意欲」と定義した上で、具体の施策1・2・3が書いてあるが、意欲にどう繋がるのかというところが、その中で見にくいような気がする。
学校教育課長	自主的に学ぶというところが、やはり薄い部分だと思う。児童生徒の状況や、教師の捉え方も様々だと思う。まず、児童生徒の課題については、2ページの下から5行目、家庭学習の時間が1時間より少ないという児童生徒の割合が高い。自ら学ぶ、自主的に学ぶということで、小学校・中学校では自主学習ノート、いわゆる自学ノートを実施している学校が多くあるが、正直そこでとどまっている学校が多いのではないのかと思っている。家庭学習と授業をどう連動させていくのか、例えば、市としても進めているのが、端末を持ち帰ってその端末を活用しながら、授業とつなぐ。このあたりができるようになると、家庭学習や授業での意欲づけにつながってくるのではないのかと思う。それを仕掛けるためには、やはり教員の課題意識や授業のつくり方が必要になってくるのかと思う。
市長	ここで明確に「学力＋意欲」と書いた上で、意欲を高めるための手法についての言及が余りあるようには思わない。付け加えて言うと、樸学園でやっていることの一つは、子供たちの中にある潜在的な意欲に火をつける活動にほかならない。そうすると樸学園でやっていることの普及活動みたいなものによって意欲に点火をすることができるんじゃないかという気もしなくはないが、いかがか。
学校教育課長	共通する部分は、やはり自己選択、自己決定できる場があるのかというのは大きいと思う。やはり意欲を喚起させるような授業のつくりや場の設定というのは樸学園ではあるが、学校ではできている教科、できてない教科があると思う。
教育長	樸学園の場合は、子供たちが学びに向かう限りは、何らかのきっかけづくりがいる。そのきっかけづくりをどこの現場でも出せるのかどうかと言ったら、人数が多いからということを経由にして材料が教科書にとどまる。教科書にとどまると、子供の興味関心を高めていく仕掛けが一見できそうで、飛びついてこないというパターンが多いと思う。だから教科書が先にあるのではなくて、たどり着く目標を先に描いて、そこからどう意欲へとつなげるか、つまり指導する中で昔から言われている、学ぶためにはエビデンスがいるとい

市長	うこと。その仕掛けをやっていかないといけないのが、通常学校でも以前からの課題であったらと捉えている。その辺が一步でも二歩でも広がっていけば、その出し方を樸学園で見習ってほしいなというのが一つの手だてにはなるだろうと考えている。 樸学園がやっているレジリエンス教育みたいなものを、普及ということをもう少し考えてもいい。考えているというような表現とか。もう一つは、青少年サポートセンターで作業療法士の活動が始まっているが、作業療法士の活用が先進事例を見るにつけ、問題の解決ということの楽しさを教えるというところに、大きなポイントがある。その辺りを普及していく議論も、書こうと思えば書ける可能性はある。それをやってここを充実しておかないと、端末活用による家庭学習、授業改善、授業の連動、メタ認知は違うと思うけれども、若干意欲のところとの関係で、自己決定というところが、もう少し強く出るような、書きぶりの検討が必要。それを周知することによって、市内の小中学校にちゃんとした影響を及ぼすことができる。
岡本委員	学び続ける取り組みとして、①「授業改善」、②「授業と家庭学習の連動」がある。③「各種調査の活用によるメタ認知」の意味を具体的に教えていただけるか。
学校教育課長	各種調査とあるが、全国学習状況調査の質問紙調査の内容や、市内では「アイチェック」という、いわゆる生活全般、学習全般のデータ等も集めている。そういった調査等を使って、自分たちがどういところが足りないのか、自分たちの学校ではどういところが課題なのかということをしつかり認識していただいた上で、課題解決に当たっていくということになっている。
岡本委員	メタ認知をどうするかというところが、鍵カッコ内に入らないといけない。
景山委員	学ぶ力の育成のところ、学力をつける以前にやっぱり子供たちの意欲というのをしっかり喚起してほしいというのを常々思っている。教員が授業をする場合は、目標設定というのが大事だし、児童生徒は受け身にならず、学びに向かう、そんな姿を見たいと思う。そのためには、子供たちが興味を持てる授業を教師がまずすること。そして、その興味を持ったことから、授業が楽しいと感じると家庭学習に結び付くのではないかと、いい循環ができるのではないかと考えている。課題解決学習も一つの手だてだし、児童生徒が自己選択・自己決定ができる、やってみたいとなるように思える。そういう仕掛けを持った授業づくりを展開していただけたらありがたい。

学校教育課長	個人差、学校差はあると思う。ただ、大原小学校だったり、昨年度の美作第一小学校だったり、かなり先進的な授業形態、校内研究、校内研修でそれを高めていただいて子供たちの表情が変わったという実例もある。子供たちがなぜ笑顔になれるのかというところをしっかりと肌で感じていただくためには、私たちがしっかり情報提供する必要があると思う。他の市町村でも様々な素晴らしい取り組みをしているところもあるので、先生方が参加できる機会をまた設定させていただこうと思う。
市長	文章上は若干の変更すべきところがある。
学校教育課長	付け足して書く。
市長	(5ページ) 校種系サテライト通級、コミュニティ系サテライト通級という難しい言葉が使っているが、どういう意味なのか、こういう言葉を使わないと表現できないものが何かあるのか。
学校教育課長	校種系サテライトは、中学校同士をつなぐというもの。作東中学校に通級を担当する先生がおられ、その方を中心にサテライトで美作中学校でも教える。ただ、ニーズによっては、英田、勝田と広がる可能性があるのもこのように表記している。一方、大原は作東中と距離があり、大原小学校は既に通級指導をしているので、大原小学校と大原中学校を地域でつなぐということで、コミュニティ系サテライトと表記している。横でつなぐか、縦でつなぐかという差。
万殿委員	もう少し分かりやすい言葉に変えたらいいと思う。分からないと実行できない、誰でも分かる言葉を使ってほしい。
学校教育課長	改善する。
浅尾委員	通級指導教室が市内では美作と大原にある、他の地域で開設される方向性はないか。
学校教育課長	小学校は、美作北小学校と大原小学校。中学校は、作東中学校。拠点となっているのが3校だが、今年度作東中学校に加配をつけるのに、実は2年3年と時間がかかっている。なかなか人の配置も難しいので、もう少し先になるかもしれないが、粘り強く県と交渉していこうと思う。
浅尾委員	知り合いに大原小学校の通級指導教室でお世話になっている子供と保護者がいる。とてもすごい、ありがたい、そこがなければたぶ

	ん子供は不登校、学校に行きたくないというふうになっていたと思うぐらい、LD もあったりして、通いづらさをずっと感じていた子供さんだった。その話を聞いて、よその学区の保護者の方が、私の知り合いの保護者の方に相談して来られた。通級指導教室がない学校でして、担任の先生に相談したら、大原小学校に親が通いで行かせてくださいというふうに言われたという感じで、とてもつらく、言われた保護者の方がすごいつらかったというふうに、相談を受けたという話を聞いて、平等にどの学校にも通級指導教室ができれば、そういう思いをせずに、子供も通いやすく、学校に行けるんじゃないかなと思う。今後、少しでも早く増設していただけたらなという思い。
学校教育課長	実は美作市内の小学校までは通級があつて、中学校で通級がなかった。通級に通っていたお子さんが中学校に行つて通級がないという不安な状況が数年あつたが、それが念願かなつて今年度から通級が開設されたということになっている。中学校通級は、私の記憶では県北には津山西中学校にあるのと、作東中学校のまだ2校しかないような状況。おっしゃられるとおり、通級指導が広がっていつて、より様々な子供たちに支援が広がっていけばいいなと私たちも思っている。
市長	そういう意味では先ほどの文章のところは、初めて開設するんだというところがより明確に分かるように変えたほうがいい。
市長	(6 ページ) 学びの多様化学校、あっさり書き過ぎじゃないかという気がする。一つは、先ほど議論をさせていただいたように、美作市内の他の学校、特に中学校、場合によっては小学校に対して、いい影響を与えるべき立場にある、という認識。その認識をもとにすると、今までの数か月においてこういう成果があつて、その成果は横展開できるのではないか。そういう横展開を進めていくということを表現する必要がある。もう一つは、教室としてスタートしているが、今後どうするか。当面は作東中学校分教室として開室しますと書いてあるが、予算上は拡大する予算をつけてやっている。そこも含めて考えるときに、今後の方針について、一つの学校にするんだというところが、十分表現されてないような気もする。横に影響を及ぼすために、学校として、教室として今までの成果の中でどういうところを横展開するのがいいか、というところについての記述。そして学校化というところ、今どの辺にいて、今後どうなるか、それを加えたほうがいいだろうと思う。
岡本委員	施策が、6 ページから8 ページの施策7までであるが、結構似たようなものがあり、整理が必要な気がする。インクルーシブ教育の推

	進と切れ目のない支援、同じようなことを言ってるんじゃないか。施策6も同じように切れ目のない支援の中に入るのかなと思うが、その辺りは何かこだわりを持っての施策になっているのか、整理が必要なのではないかなと思う。あと、施策2について、支援員、人のことの資質向上が書かれているが、幼児教育においても普通の学校教育においても同じことだが、あえてここは支援員の資質向上が必要だということで載せているものなのか。もう1点、施策7にGIGAスクール構想があるが、ここの括りとして、(4)の支援教育の推進の中に入っている。ここで良いのかいうところが気になった。
学校教育課長	内容の重複についてはもう一度整理をさせていただく。特に、GIGAスクール構想については、学ぶ方に入るかもしれないし、移すとなると内容も検討が必要になってくると思うので、ご意見を反映していく方向で考えさせていただく。支援員の資質向上については、再度検討させていただく。美作市の特徴としても、支援員の方が入り、本当にきめ細かく支援してくださっている方もいれば、一生懸命してくださっているがなかなか成果が高まらないという実態もあり、年2回の研修を実施しているが、記述については検討させていただきます。
市長	確かに若干付け加えるとすれば、力を込めてやっている樸学園とか、通級とか。いろいろ新しい工夫がある中で、振り返ってインクルーシブ教育になっているのか、という論点がある。そうすると、インクルーシブ教育っていうものの定義を拡大するのか、あるいは旗をおろすのか。どうするのかという、根本的な議論が出てくる。その整理を1回よく考えてみていただきたいと思います。
教育長	通級指導とインクルーシブ教育というのが別物のように捉えられるのが問題だろう。1番大きな網でかかっているのはインクルーシブ教育なので、その中にいかに個に応じて、特性に応じて対応ができていくかどうか。その要因として支援員がいる、通級指導教室の担当者が多い理由。それになおさら、サポートセンターにOTを導入している。そこが横展開で連携できるかどうかというのが1番課題だろうと思う。インクルーシブが実現しているかどうかという辺りがかすかに見えてきているのが樸学園の中。樸学園の中には長欠、完全長欠の子供もいる。支援学校適と判定された子も来ている。知的情緒の支援学級適になっている子も混じっている。そうした特性を持った子が15人一緒くたにおる。その中で何らトラブルはない、それぞれがそれぞれの学びを展開し、しかも一つの学校の中で、限られた教員で、残念ながら樸学園には支援員1人もいない。学校支援員がいるが、指導にあたる支援員はいない。なぜそれができるかと言ったら、教科の免許を持っている人だけが教科をやっていれば良いというような考えではやってないわけ。学びのきつ

	かけはどんな教科であろうと、やれるんじゃないかということで投げかけている。ということは、理科の免許しか持ってないんだけど言いながら、時には数学、国語、そういった免許外のところにも興味を持たせるきっかけづくりができるということで、少しずつそれが拡大していけるような流れをつくっている。そうした職員を先生方を育てていかないと、通常学校の中でインクルーシブ教育といっても、これは単なる言葉だけが起きているとしか言いようがない。インクルーシブを進めていける指導者が、どうしたらできるかという、その具体的に見えるのが、現在、樸学園の中でないか。それでもう動いているという実態がある。だからその辺のほうを目指してやっていただければ、より、浸透しやすいことだろうと考えている。
市長	今の論点も含めて、樸学園のところの記述が豊富になっていく可能性がある。
岡本委員	1 ページに話のことに戻るのではないかなと。(1)の幼児教育の質の向上、入園者が減って、集団の保育や教育が困難になっているということ。困難というのが何か、園や保育所が困難になっているのかという書きぶりに見えて仕方がない。そこも表現を変えていただければ。
市長	どう変えたらいいか。
学校教育課長	私が認識しているのは、少子化によりというところが前段にある。集団としての高まりというところがここにかかると認識している。インクルーシブの方では集団、インクルーシブの方ではないという捉えです。
市長	赤字ではないところの文章表現も場合によっては変更していただく必要性があるかと思う。GIGA スクールについては場所が変わるかもしれないという議論でしたね。
教育次長	(8 ページ) 8 ページについては、協議事項 (2) その他で協議する。
市長	(9 ページ) 施策 1 の公民館の再編成、アーバンスポーツのことを勝田で書き始めると、公民館の再編成というタイトルがちょっと弱くなっている。前は勝田地域で検討しますと書いてあったが、だんだん勝田の方が色濃くなってきていて、19 館ある公民館を減らすんだということが主体だったが、元々の議論でいうと、数は減らす内容を充実させるという色があったはず。人的配置をちゃんとして、公民館

	長を付けて内容のある活動をするという趣旨のことが書いてあったが、それがなくなったような気もする。そういう意味で、実際やろうとしてみるとずれが若干出てきている感じがある。公民館の持っている公民館活動の活性化という、当たり前のことをやっているつもりであって、その中の一つのアイテムとして、整理統合をして人的配置をするというのがあった。それに即した書き方にした方が市民の皆さんには分かりやすいような気がするのでよろしくお願いします。
市長	みまさか市民大学の開校というのがあって、各地域の公民館活動として引継ぎとなっているが、市全体の場合はどうするのか。
社会教育課長	市全体の市民大学については、今のところ3講座を検討している。一つは、この間の「風の奏の君へ」の上映会を1回させていただいたが、それにプラスして、市内の小学校6年生を対象とした伝統芸能鑑賞事業をやっている。地域の伝統芸能を小学校6年生に見ていただく事業だが、この事業を少し拡大をして、市民の方にも同じように見ていただけるような、場の提供を考えている。もう一つとして、講演会、講演内容については計画中だが、講演会を開催する予定として考えている。
市長	それを主催したのは誰。
社会教育課長	社会教育課。
市長	そうすると、公民館活動として引継ぎというのが、狭くなり過ぎる。何らかの文章的な改善をしていく必要があると思う。主体はもう動かしてもいいと思う。それから、民間企業の教育なんていうのに触れてくれても構わない。例えば、朽木の老人クラブは、ほかの老人クラブのまねをして、英田エンジニアリングに遊びに行った。結構いい勉強になったと言って帰ってきた。みまさか市民大学について、もう少し彩りのあるものであると表現できた方が楽しいかもしれないと思う。
社会教育課長	いろいろな取り組みを今後考えてまいりたい。
市長	(11ページ) 施策3のところ、多目的ホールを及び公民館機能を融合させた、と書いてあるが、この多目的ホールのイメージ次第で財布のひもがくくられなくなる可能性がある。ホールを湯郷にある文化センターと同規模のもので想定すると、約50億強かかる。庁舎より高いという話になっていて、これは無理があるなど、今20億程度でやっている。それで、ホールまで入るか。

社会教育課長	ホールの規模によるかと思う。美作文化センターは 500 席から 600 席程度の規模で、このものであれば到底入らない。現状、適正規模として、200 席から 250 席程度のものとして考えている。それと、音楽に特化した音楽ホールであれば、これはまた高額なものになってこようかと思うので、どこまでのものを求めるかというところにはなってくるが、多目的ホールとして検討してまいりたいと思っている。
市長	予算上のテクニックの話しに近いが、公民館の機能というので、若干の会議スペースとか付くのはすぐ見えるわけ。ホールを求めておられる方々はたぶん言ってくると思うんで、それまで待っていたらどうかという気持ちがしないでもない。多目的ホールと書いて音楽ホールを作れと言われるよりも、公民館と書いて、小ホール作った方がたぶん安くなる。多目的ホールのところは当面この文章から、落としておく方が後の運転が楽かなと思ったりするが、万殿課長いかがか。
社会教育課長	内容については、個々のホールであるとか公民館、中央図書館、こういったものを外し、複合文化施設という括り・形に変更をさせていただきたいと思う。
教育次長	(13 ページ) 美作市地域クラブ活動への移行に向けた現状と課題について、計画の表現についてはこの場でご協議いただき、後のその他のところで、地域クラブに関しても改めてご協議をいただきたい
市長	一巡したが、先ほども岡本委員からあったように、ほかのところも含めてどうかということで、もう 1 回お尋ねするが、最初のページから今までのところで、発言のし残しとか今までの議論を聞いて、ほかのところに影響があるのではないかと、ご意見があれば承る。 特にないようなので、協議事項 (1)、事務方には大変申し訳ないが、いくつかの文章の改善の話があったので、どうぞ作業方よろしく願います。 【休憩】 市長部局の職員は退席（事務局を除く。） 【協議】 協議事項 (2) その他 学校園等の統廃合の検討、部活動地域移行等について、意見交換

秘書課長	を行った。 協議事項（１）でのご意見は、事務局・教育委員会にご一任いただき、文章の修正等をさせていただいてよろしいか。
市長	大変たくさんの意見をいただいて随分変わるが、それなりに議論の中である程度の方向性を共有しているので、その範囲内での文章づくりになるということで、今後は文章の中で整理して、それをお手元にお届けするというご理解をいただきたい。 （異議なし）
教育長	５ 閉会 １部、２部とも意見が盛り上がって、近年にない総合教育会議になった。具体的にどういう課題等が見えてきたか、これを見据えた上で文言に落としてそれを実行するというのが１番になるだろうと思う。その中で成果は大小問わず、こんなやってみていいことがあったんだということはメモしておいて、次年度の教育会議でも報告がいただければありがたい。小さな一歩が見えるということは、中身が充実していく１番大きな力になると思うので、今後ともよろしくお願いしたい。 長時間にわたりましてありがとうございました。